

森林保険だより

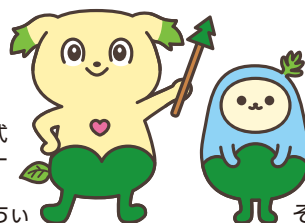
2025.1

No. 37

森林保険センター季刊誌

森林保険公式
キャラクター

たもちい



そよりん



厳しい環境で、長い時間をかけてゆっくり育つ「かがわヒノキ」（撮影／香川県森林組合連合会 北田 大）

- ◆ 新年のご挨拶（国研）森林研究・整備機構 理事長 浅野(中静) 透 2
- ◆ 森林保険窓口紹介 香川県森林組合連合会
一異常気象に備え、森林保険の加入に向けた取組を誠心誠意推進する一 3
- ◆ 令和5年度の森林保険損害てん補状況と気象災害 4
- ◆ 研究者からのたより 十日町試験地の観測記録原簿と
積雪観測用地下道が「林業遺産」に認定 6
- ◆ 保険金をお支払いした災害の事例(凍害・火災) 7
- ◆ たもちい・そよりんの「予算を立てて、かしこく備える」 8

新年のご挨拶



国立研究開発法人
森林研究・整備機構
理事長
浅野(中静) 透

2025 年を迎え、謹んで年頭のご挨拶を申し上げます。

皆様には、日頃から森林保険業務に対しての多大なご理解とご協力をいただき、厚く御礼申し上げます。

昨年は、元日に能登半島地震が起き大変驚きましたが、追い打ちをかけるように、9 月には奥能登豪雨が襲い、大きな被害をもたらしました。被害を受けられた地域の方々には大変つらい一年であったと思います。被害を受けられた皆様には、心よりお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復旧・復興を心より願っています。

奥能登の豪雨もそうかもしれませんが、最近は気候変動の影響で気象の極端化が顕著になっています。さまざまな気象災害が激甚化すると予想されており、私たちの日常生活にも大きな影響が懸念されています。森林には、こうした災害を緩和する働きがあることがわかっており、豊かで健全な森林を保つことは、私たちの生活を守ることにもつながります。したがって、木材として利用された後の林や、災害によって損なわれた森は、速やかに回復させることが重要です。森林保険は、被害を受けた森林に対する補償という面だけでなく、そうした公益的な機能の回復という面でも大きな役割を持つものと確信しております。

10 年前に森林保険センターとして森林研究・整備機構に加わって以来、同機構内の森林総合研究所との連携を深め、森林被害の早期把握や、被害リスクの評価なども進めてきました。また、同じく機構内で水源林造成業務を担う森林整備センターとも、災害地域への協力体制を培ってまいりました。こうした連携により、予想される気候変動の時代においても、これまで以上に皆様のお役に立てる保険制度に発展できるように取り組んでまいります。引き続き、皆様のご理解とご協力、ご指導をお願いしたいと願っています。

末筆となりましたが、新しい年が災害のない、安全・安心な 1 年であることを願うとともに、皆様のますますのご健勝とご発展を祈念し、年頭のご挨拶とさせていただきます。



森林保険
窓口紹介

香川県森林組合連合会



－異常気象に備え、森林保険の加入に向けた取組を誠心誠意推進する－

香川県の森林について

四国の北東部に位置する香川県は、瀬戸内海に浮かぶ多数の島々を含み、県土面積は全国で最も狭い約18.8万haとなっています。

気候は温暖で雨が少なく、日照時間が長い典型的な瀬戸内式気候に属しています。また、河川のほとんどは讃岐山脈に源を発して瀬戸内海に注いでおり、流路が短く河幅も狭く、水量は乏しいです。そのため水事情は厳しく、満濃池をはじめとする県内各所の大小12,200余のため池や香川用水に依存しております。

森林率は46.8%、森林面積は約8.8万haで、そのうち国有林が9.4%、民有林が90.6%であり、民有林に占める人工林率は23.2%となっております。民有林人工林における樹種別構成を面積割合でみると、スギが8.8%、ヒノキが63.2%、その他針葉樹（アカマツ・クロマツ等）が21.4%と、全国と比較してもヒノキの割合が高く分布しております。

本県の木材生産額は、全国でも沖縄県、大阪府について3番目に低く、決して林業県とは言えませんが、一方で、昭和40年代後半の松くい虫被害の後に植栽されたヒノキが木造住宅の柱材などに利用できる時期（7齢級以上）を迎え、間伐材の搬出が進んでいます。民有林の木材搬出量は、平成16年度には約1,000㎥でしたが、令和4年度には約5,600㎥と、増加傾向にあります。

災害の発生状況

本県の主な自然災害は水害と干害で、過去には平成16年の台風15号、16号、21号、23号で甚大な被害を受けました。特に台風23号では、豪雨により県東部で土砂災害が発生し、近年にない大きな災害となりました。

直近5年間の森林保険契約地の罹災件数は4件と比較的少ないですが、干害の罹災件数が増えているほか、令和5年には本県東部に初めて線状降水帯が発生し、一部地域では洪水や山腹崩壊が起きるなど、水害の脅威にもさらされております。

森林保険の推進活動

本県では比較的罹災件数が少ないですが、平成16年の台風災害のような万が一に備えて、森林所有者に森林保険への加入を勧めています。

本県の保険加入状況は、民有林人工林面積約18,400haに対して加入面積約2,400ha、加入率13.2%と、全国の加入率6.7%を上回っているもの

の決して多いとは言えない状況です（令和5年度の実績）。

継続加入率は91.6%と高く、特に市町については高い継続率を維持しています。市町の保険契約に関しては、満期を迎える契約を早めに把握して市町担当者への情報提供を行っており、その他のご契約者様にも2ヵ月以上前に満期のご案内を行うなど、丁寧な対応に努めています。

このように、本県の継続加入率は高く、過去10年の森林保険加入率も15%前後と安定していますが、森林保険の加入率を増加させるためには、新規加入に向けた取組が肝要です。林業イベントの際にパンフレットやウェットティッシュを配布したり、森林保険相談コーナーを設置するなど、PRにも努めておりますが、森林所有者の中には、森林保険の必要性を感じていない方や、森林保険自体を知らない方もまだ多いのが実態です。

ひとりでも多くの方に森林保険を知っていただくため、森林組合の組合長や職員も含めて森林保険の必要性、重要性を改めて再認識し、協力して取り組んでいきたいと考えております。



平成29年10月、台風21号の大雨による被害を受けたヒノキ5年生（香川県仲多度郡まんのう町）



令和2年8月、干害により茶褐色に枯れたヒノキ3年生（香川県仲多度郡まんのう町）

令和5年度の森林保険損害てん補状況と気象災害

令和5年度の損害てん補状況

令和5年度の森林保険の損害てん補件数は854件、損害てん補面積は約288ha、保険金支払額は約2億6千万円となりました。災害別では、損害てん補面積が大きいものから干害112.4ha、凍害48.8ha、雪害38.4ha、風害36.3ha(図1)、保険金支払額が大きいものから雪害0.69億円、風害0.55億円、干害0.42億円、凍害0.41億円(図2)となっています。

なお、これらの実績には、令和4年9月の台風第14号による風水害や、令和4年12月の大雪による雪害など、過年度に発生した災害による分が含まれています。

各年度毎の災害別・都道府県別の内訳などの詳細データについては、森林保険センターサイトで公表している「森林保険に関する統計資料」をご覧ください。

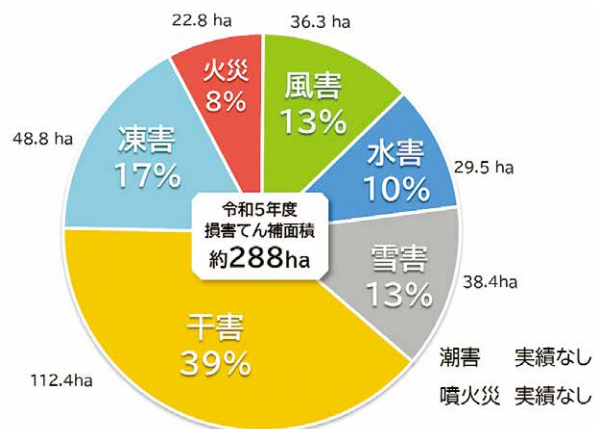


図1 損害てん補面積の内訳 (令和5年度)

令和5年度の気象災害の状況

<気温・日照時間・降水量>

令和5年の1～12月は、世界年平均気温が統計開始以降で最高値と、記録的な高温の1年となりました。日本でも全国的に年平均気温が高く、年平均気温は昭和21(1946)年の統計開始以降で北・東日本では1位、西日本では1位タイの高温を記録しました。

特に、7月後半から8月にかけては北・東日本を中心に記録的な高温となりました。また、8月には台風に伴って南からの暖かく湿った空気が流れ込み、フェーン現象が発生して高温をもたらしました。

秋は、全国的に晴れた日が多く、全国的に高温・多照となりました。また、東・西日本太平洋側と沖縄・奄美では記録的な少雨となった一方で、低気圧の影響を受けやすかった北日本日本海側や東日本日本海側では多雨となりました。

冬は、冬型の気圧配置が長続きせず、全国的に気温がかなり高く、降雪量は少なくなりました。一方で、11月中旬から3月にかけて断続的に冬型の気圧配置が強まったことにより、北・東日本日本海側を中心に大雪となった地域もありました。

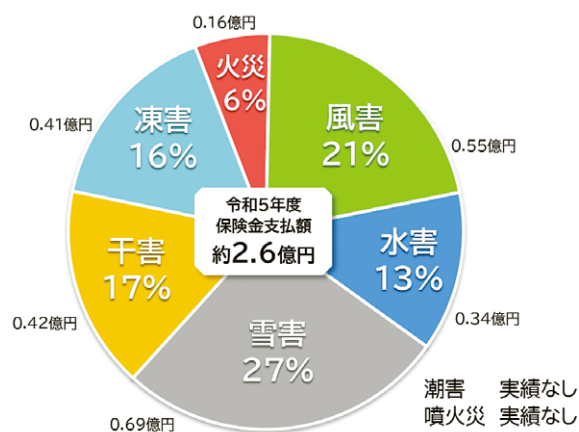


図2 保険金支払額の内訳 (令和5年度)

<気象災害>

令和5年度には梅雨前線の影響や台風の接近等に伴い各地で線状降水帯が発生するなど、大雨による被害が相次ぎました。また、台風の発生数や接近・上陸数は例年よりも少なく、特に9月以降の発生数は統計開始以降最も少なかったものの、強い勢力で接近した台風が多く、大雨や強風による被害が相次ぎました。

各災害の概況を振り返りますと、梅雨前線の影響では6月に高知県、和歌山県、奈良県、三重県、愛知県、静岡県で、7月に山口県、熊本県、鹿児島県奄美地方、島根県、福岡県、佐賀県、大分県、石川県、富山県で線状降水帯が発生し、土砂災害等が発生しました。

台風第6号は、8月上旬に大型で非常に強い勢力で沖縄や九州地方に接近しました。複雑な進路をとったため、これらの地域や四国地方では線状降水帯が発生し、雨が長く続きました。

続く台風第7号は、8月15日に和歌山県に上陸した後、近畿地方を北上しました。経路となった東海、近畿、中国地方では記録的な大雨となり、岩手県、岡山県、鳥取県で線状降水帯が発生しました。また、三重県と兵庫県では最大瞬間風速が30m/sを超える暴風が、愛知県、静岡県、埼玉県では竜巻などによる突風が発生しました。

9月上旬に日本の南を北上した台風第13号は、勢力は強くなかったものの、南から暖かく湿った空気が流入したため、台風の中心から離れた場所で雨雲が発達しました。東京都伊豆諸島、千葉県、茨城県、福島県では線状降水帯が発生し、関東地方や東北太平洋側で大雨となりました。

気象庁は、日本の気象の変化傾向について
気温 年平均気温は上昇し、全国的に猛暑日や熱帯夜が増加、冬日は減少

降水量 全国的に大雨や短時間強雨の発生頻度が増加している一方、降水日数は減少

積雪量 北日本、東日本、西日本の日本海側で減少

と示しています。実際に、令和6年も年平均気温が統計開始以降の最高値を更新し、年降水量も最大値を更新する地方が生じるなど、異常気象が続いています。

激甚化が進む自然災害のリスクを正しく認識し、これら自然災害による損害をカバーできる森林保険を、ぜひご活用ください。

参考：令和6年度防災白書（内閣府）

2023年（令和5年）の日本の天候（気象庁）

2023年の台風について（確定）（気象庁）

2023年～2024年の冬（12月～2月）の天候（気象庁）

気候変動監視レポート2023（気象庁）

2024（令和6年）の天候のまとめ（速報）（気象庁）



令和5年台風第7号の暴風により倒れたスギ（和歌山県）



令和5年台風第13号の大雨でコウヨウザンが流失（福島県）



令和5年11月の干害で枯れた花粉症対策ヒノキ（長崎県）

表紙

厳しい環境で、長い時間をかけてゆっくり育つ「かがわヒノキ」

撮影・文／香川県森林組合連合会 北田 大

香川県のヒノキは、雨量の少なさや、北側斜面に植えられたことによる日照条件の悪さといった厳しい環境下で、時間をかけてゆっくりと生育しています。そのため、年輪が密で均一と美しく、ゆがみも少なく加工しやすいという優れた特質があります。

これらのヒノキは、昭和40年代後半の松くい虫被害の後に植林され、今、伐採期を迎えており、昨年11月には「かがわヒノキ」のブランド化に向けたロゴマークとキャッチフレーズも決定しました。

森林組合でも原木を増産する予定ですが、一方で、県内には原木市場がなく、国産材を専門的に製材できる工場も1社のみです。搬出される原木の7割以上が県外に運ばれるため、運搬経費がかさむなど、林業経営にも負担がかかります。香川県森林組合連合会では、国産材専門の製材工場の建設を計画し、今後増産が見込まれる県産材のほぼ全量を県内で受入れ、加工できる体制を整え、長年の課題解決につなげようとしているところです。



「かがわヒノキ」
ブランドロゴマーク

十日町試験地の観測記録原簿と 積雪観測用地下道が「林業遺産」に認定

国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所 十日町試験地 竹内 由香里

森林総合研究所十日町試験地では、設立当初から100年を超えて雪や気象の観測を行っており、観測値を記録した観測記録原簿が保管されてきました。また早くから積雪や雪崩の研究に着手し、実験斜面に沿った地下道を造って行われた先駆的な研究により、日本の雪崩災害防止対策や多雪地における林業技術の開発に重要な役割を果たしました。その価値が認められ、観測記録原簿および積雪観測用地下道が一般社団法人日本森林学会により2023年度「林業遺産」に認定されました。

十日町試験地は、1917（大正6）年3月に農商務省山林局林業試験場十日町森林測候所として新潟県十日町市の現在の地に創設されました。森林測候所とは、明治時代末期に頻発した洪水の水害対策のため、それまで観測されていなかった中山間地域の気象観測を行うことや森林の治水機能を解明することを目的に設けられた施設です。国内20の主要河川の上・中流域に設置され、最多期には全国39箇所にはありましたが、現在も存続しているのは十日町試験地だけになりました。

森林測候所として始まった十日町試験地では、毎日定時に気温、湿度、降水量、積雪深などの気象観測が行われ、観測値が所定の記録用紙に手書きで記されていました。その観測記録原簿が1年ごとに綴じられて1917年分からすべて保管されています（写真1）。

気象観測に加えて、雪の多い十日町では、積雪の基本的な性質を調べる研究が重点的に行われるようになり、1936年に十日町森林治水試験地となってからは雪崩防止に関する研究も行われるようになりました。

斜面に積もった雪は地面を滑ってゆっくり下方へ移動します。この現象（グライド）は、斜面上の樹木の成育を妨げ、また進行すると全層雪崩（雪が地面を滑って流れ下るタイプの雪崩）の発生に至ることがあるため、多雪地における林業や雪崩災害軽減のためには、まずグライドについて理解することが必要でした。そこで十日町ではグライドを観測するための実験斜面が整地され、斜面に沿って地下道が造られました（写真2）。この地下道は現存していて、全長は50m、完成したのは1938年12月です。補強材として鉄の代わりに竹を用いた竹筋コンクリート製で、金属不足を補うために考案された戦時中

の技術で造られています。地下道には積雪移動量を自動記録する装置が設置され、1937/38年冬期にその記録に初めて成功しました。斬新なアイデアによるこの研究によって斜面上の積雪は絶えず移動していることとその移動速度が明らかになり、グライドと全層雪崩発生過程の解明が大きく進展しました。

現在、十日町試験地の雪や気象の観測データは当試験地のウェブサイトに掲載し、地下道や実験斜面を活用した研究は「十日町試験地WEB博物館」に写真で紹介しています。併せてご覧いただくと幸いです。



写真1 観測記録原簿（気象月表原簿）



写真2 地下道に残る積雪移動量記録装置の一部

十日町試験地 WEB 博物館
https://www.ffpri.affrc.go.jp/labs/tkmcsc/tkmcsc_webmuseum_j.html



保険金をお支払いした災害の事例

～ 入っていてよかった、森林保険。皆様もご加入ください ～



令和4年12月の後半は、強い寒気の影響により厳しい冷え込みとなった。当該地でも、日最低気温が平年値3℃のところ氷点下を記録する日が続き、やや強い風も吹いた。また、1月上旬にかけて降雨がなかったため、スギ2年生が赤褐色に変色し、完全に枯死した。



入っちゃって良かった、森林保険。
皆さんも入っちゃくとよいちゃ

事例 宮崎県 私有林

樹種・損害時林齢：スギ・2年生
実損面積 / 契約面積：0.73ha/3.51ha
支払保険金：737,300円

(参考)

ha当たり保険料 / 年：4,861円(10年契約)
付保率：100%



令和4年3月、ケヤキ、コナラ、ヤマグリで構成される水源かん養林に野焼きの火が延焼し、木が焼失したり、根元から樹冠まで焼け焦げるなどの被害を受けた。



しゃっってよかったばい、森林保険。
あたどんもしゃっときなはい

事例 熊本県 公有林

樹種・損害時林齢：その他広葉樹・13年生
実損面積 / 契約面積：8.43ha/8.90ha
支払保険金：6,845,160円

(参考)

ha当たり保険料 / 年：1,179円(5年契約)
付保率：70%

※紹介している事例は、実際に保険金をお支払いした一例です。

お支払いする保険金の額は、ご契約内容や実際の災害によって異なります。

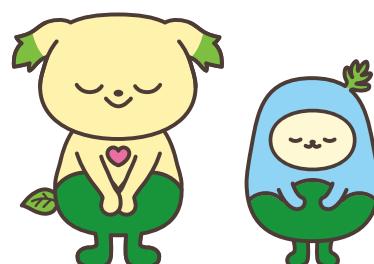
また、保険料は、森林の所在する都道府県・樹種・林齢・面積、ご契約時の保険料率等の諸条件により異なります。

森林保険センター職員人事異動のお知らせ

よろしくお願いします

令和6年10月16日付

新職名	氏名	前職名
保険企画課長	石崎 峰孝	林野庁森林整備部森林利用課



たちち・そりんの 予算を立てて、かしこく備える

試算ソフトを使って
保険料を計算してみたそりん



さっそく申込みに…



準備万端ですね!



そよ?!



予算のことを考えていなかった…

もう一度、「付保率」を調整して
試算してみましょう!

大丈夫!

森林保険に
入れないの…?



たちち

森林を育む人に寄り添い、
森林の再生を応援する
“しんりんほ犬”
責任感の強いしっかりもの。



そりん

森林に宿る妖精。
山火事や自然災害に困っていたが、
たちちと出会って心強く感じている。
ちよっとのんびりでマイペース。

教えて たちち

森林保険 ひとくちメモ

Q. 「付保率」とは何ですか。

A. 付保率は、保険金額の上限(標準
金額)に対する割合(掛け率)を表
し、ご希望の付保率でご契約いた
だけます。

間伐するから
台風に備えたい…

例えば… 和歌山県(地域区分B)
ヒノキ 35年生 1ha

付保率 100% 保険金額 318万円
保険料 9,953円

付保率を50%にすると…

付保率 50% 保険金額 159万円
保険料 4,976円

保険金額、保険料は50%に

※契約内訳あたりの保険金額には下限がある等、
付保率の調整には注意点もございます。

※詳しくは、森林組合、森林組合連合会、森林保険
センターまでお気軽にお問い合わせください。

森林保険センター公式ウェブサイト・公式SNS

ウェブサイト

[https://www.
ffpri.affrc.go.jp/fic/](https://www.ffpri.affrc.go.jp/fic/)



Facebook

[https://www.
facebook.com/shinrinhoken/](https://www.facebook.com/shinrinhoken/)



YouTube

「森林保険チャンネル」

[https://www.
youtube.com/@FIC-channel](https://www.youtube.com/@FIC-channel)



国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林保険センター

〒212-0013 神奈川県川崎市幸区堀川町 66-2 興和川崎西口ビル 9F

電話：044-382-3500 (代表) FAX：044-382-3514